

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

削除医薬品通知

●9月3日より

アログリセムカプセル 25 mg	削除
レフトーゼシロップ 0.5%	削除
トミロン細粒小児用 10%	削除
テルシガンエロゾル 100 μ g	削除
エリザスカプセル外用 400 μ g	削除
滅菌オリブ油 100mL	削除
アレピアチン注 250 mg/5mL	削除

規格変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
エリザス点鼻粉末 200 μ g28 噴霧用	エリザスカプセル外用 400 μ g
オリブ油（滅菌済）15mL	滅菌オリブ油 100mL

剤形追加通知

今回採用医薬品

●9月3日より

ジルテックドライシロップ 1.25%
バルトレックス顆粒 50%
スピリーバ 2.5 μ g レスピマツト 60 吸入

医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
・ジアゾキシドカプセル 25 mg「MSD」	アログリセムカプセル 25 mg(MSD)

適応追加通知

ソナゾイド注射用 16 μ L	<p>超音波検査における下記造影 肝腫瘍性病変、乳房腫瘍性病変 ペルフルブタンマイクロバブルとして16μ L (1バイアル) を添付の注射用水2mLで懸濁し、通常、成人1回、懸濁液として0.015mL/kgを静脈内投与する。</p>
ユナシンS静注用 1.5g	<p><適応菌種> 肺炎球菌、モラクセラ(プランハメラ)・カタラーリス 通常成人にはスルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウムとして、1日6g(力価)を2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。なお、重症感染症の場合は必要に応じて適宜増量することができるが、1回3g(力価)1日4回(1日量として12g(力価))を上限とする。</p>
フラジール内服錠 250 mg	<p>① 嫌気性菌感染症 <適応菌種> 本剤に感性のペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、ポルフィロモナス属、フソバクテリウム属、クロストリジウム属、ユーバクテリウム属 <適応症> 深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、肺炎、肺膿瘍、骨盤内炎症性疾患、腹膜炎、腹腔内膿瘍、肝膿瘍、脳膿瘍</p> <p>② 感染性腸炎 <適応菌種> 本剤に感性のクロストリジウム・ディフィシル <適応症> 感染性腸炎 (偽膜性大腸炎を含む)</p> <p>③ アメーバ赤痢</p> <p>④ ランブル鞭毛虫感染症 【用法・用量】 ① 嫌気性菌感染症 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回500mgを1日3回又は4回経口投与する。 ② 感染性腸炎 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回250mgを1日4回又は1回500mgを1日3回、10～14日間経口投与する。 ③ アメーバ赤痢 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回500mgを1日3回10日間経口投与する。なお、症状に応じて1回750mgを1日3回経口投与する。 ④ ランブル鞭毛虫感染症 通常、成人にはメトロニダゾールとして1回250mgを1日3回5～7日間経口投与する。</p>
バクタ配合錠 バクタ配合顆粒	<p>ニューモシスチス肺炎の治療及び発症抑制 <適応菌種> ニューモシスチス・イロペチー <適応症> ニューモシスチス肺炎、ニューモシスチス肺炎の発症抑制 (1)治療に用いる場合 通常、成人には1日量9～12錠(顆粒の場合は9～12g)を3～4回に分割し、経口投与す</p>

	<p>る。通常、小児にはトリメトプリムとして1日量15~20mg/kgを3~4回に分割し、経口投与する。ただし、年齢、症状に応じて適宜増減する。</p> <p>(2)発症抑制に用いる場合</p> <p>通常、成人には1日1回1~2錠（顆粒の場合は1~2g）を連日又は週3日経口投与する。</p> <p>通常、小児にはトリメトプリムとして1日量4~8mg/kgを2回に分割し、連日又は週3日経口投与する。</p>
<p>ペンタサ錠 250 mg</p>	<p>潰瘍性大腸炎</p> <p>通常、成人にはメサラジンとして1日1,500mgを3回に分けて食後経口投与するが、寛解期には、必要に応じて1日1回の投与とすることができる。</p> <p>なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日2,250mgを上限とする。ただし、活動期には、必要に応じて1日4,000mgを2回に分けて投与することができる。</p> <p>通常、小児にはメサラジンとして1日30~60mg/kgを3回に分けて食後経口投与する。</p> <p>なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日2,250mgを上限とする。</p>
<p>プラビックス錠 75 mg</p>	<p>経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される下記の虚血性心疾患</p> <p>急性冠症候群（不安定狭心症、非ST上昇心筋梗塞、ST上昇心筋梗塞）</p> <p>安定狭心症、陳旧性心筋梗塞</p>